

SSKU

脳損傷・高次脳機能障害



サークルエコー

VOL.59 (2015年3月)



皆さん、お元気ですか。
瀬戸市 カオリ

サークルエコーは.....

事故や病気によって脳に損傷を受けると、新しいことが覚えにくくなったり、意欲が低下したり、感情のコントロールが難しくなるなどのため、社会生活の様々な場面で問題が生じることがあります。このような後遺症を高次脳機能障害といいます。目に見えにくい障害のため、社会の理解を得にくいこと、したがって現行の福祉制度を利用することが難しい点が大きな問題となっています。サークルエコーは、高次脳機能障害をとりまく問題の中で、特に、日常生活にも援助が必要な人たちの問題に取り組んでいます。

ホームページ <http://www.circle-echo.com/>
(会報がカラーで見られます)

ブログ <http://circleecho.blog.fc2.com/>

目次

- ・全国協議会等、27年度から効率化..... 2
- ・寄稿 出会いふたたび..... 4
- ・心のファイル 辛いことばかりじゃない..... 6
- ・行事&会合報告..... 11
- ・お知らせ..... 12

- ・発行：サークルエコー
- ・〒206-0824 稲城市若葉台 3-1-1
ワルツの杜C-405 田辺方
- ・電話：042-350-3292
- ・E-mail: kako.m.d.t.1201@nifty.com

全国協議会/ブロック会議の効率化等 27年度から

全国コーディネーター会議、協議会等開催

2月19日、国リハ主催、支援コーディネーター全国会議が、東京タワーの間近か、神谷町のスタンダード会議室で行われました。これまでの豪華な共用会議所に比べ、実用的な会議室は、全国各地のコーディネーターでぎっしり。午前は、宮城、愛媛、茨城各県の報告、午後はグループ別に事例検討会。熱心な議論が繰り広げられました。

翌20日は、全国支援拠点機関連絡協議会。北海道から沖縄までの拠点機関の委員や関係者のほか、家族会の傍聴者等、200名ほどが会場を埋めました。最初に、厚労省から、モデル事業から今日までの事業の経緯と今年度の方針の解説がありました。高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業の平成27年度予算は、国立障害者リハビリテーションセンター実施分が、1,100万円。「高次脳機能障害情報・支援センター」にて、情報の集約・発信等、情報提供の強化に充てられます。都道府県での支援は、地域生活支援事業費464億円の中から。これは、「意思疎通支援や移動支援など障害児・障害者の地域生活を支援する事業について、複数市町村の共同実施（意思疎通支援）を推進する等により事業の着実な実施を図る」（厚労省）という予算全体のもので、高次脳機能障害者支援も、その中に含まれます。つづいて、国立障害者リハビリテーションセンター学院の中島八十一氏の講演「高次脳機能障害者支援における今後の課題」。これまで、高次脳機能障害支援に関わる様々な研究が行われていた厚生労働科学研究が今年度で終了するため、研究費で2日間にわたり行われていた全国連絡協議会や支援コーディネーター全国会議を、次年度からは1日で行い、ブロック会議については継続するか否かの判断をブロックに任せるなど、効率的な内容に変更しなくてはならない等が語られました。その後、各ブロックの代表の発表、失語症支援、小児の問題、医科歯科連携、運転などについての報告がありました。

エコーも発表、公開シンポジウム

午後は公開シンポジウム。1部は「医療と福祉の連携について」。目白大学の曾田玉美氏が「高次脳機能障害者の将来を視野に入れたステージごとの連携の重要性」、横浜市総合リハビリテーションセンターの佐々木葉子氏が「中途障害者のリハビリテーションと地域移行支援」。2部は「当事者の家族の立場から」。いわて脳外傷友の会イーハトーブ代表の堀間幸子さんが「家族会活動10年のあゆみ～互いに支え合って」、つぎに、当会の田辺が「サークルエコー15年のあゆみ & 我が家の場合」を発表しました。司会の深津玲子先生が、「サークルエコーは、15年にわたる活動。芸能界で15周年といえば、ジャニーズの『嵐』がそうですね。」と言われました。そうか、エコーは、『嵐』と同じ頃に活動を始めたんですね。 (田辺)

【関連情報】支援拠点機関は、平成26年6月の時点で、全国に99ヶ所、相談支援コーディネーターは、297名（社会福祉士180名、保健師102名、作業療法士130名、言語聴覚士18名、精神保健福祉士42名、心理技術者18名、相談支援専門員19名、介護支援専門員25名、ケースワーカー14名、社会福祉主事17名等）。相談支援件数は、全国で、76,777件。高次脳機能障害情報・支援センターのウェブサイト（http://www.rehab.go.jp/brain_fukyu/）へのアクセス数は、平成24年4月1日から翌年3月31日までは、68,439件、平成25年4月1日から翌年3月31日までは、148,018件。24年度に比べ25年度は、アクセス数が倍増しているのは興味深いところだ。

・ 出会い

ダイさんとの出会いは、平成16年の4月まで遡ります。当時、私はまだ20代の半ばで、パサージュいなぎに併設される「地域生活支援センター」の立ち上げをしていたころでした。スタッフは自分と、自分よりも年下の女性スタッフの2人だけ。始まったばかりの支援センターで、上司から言われるままにスタッフ2人で狛江へ向かいました。

「高次脳機能障害」。当時初めて聞く言葉でした。支援センターの開設後間もない中でドキドキし、初めていく土地にドキドキし、初めて聞く障害名と初対面にとっても緊張しながら向かったことを思い出します。

初めてお会いしたダイさんの印象は、長い髭を生やしていましたが、今風にいう「イケメン」。ご家族が温かい笑顔をもって迎えてくださった印象は強く残っています。それは未熟な私たちの支えにもなりました。その日、ダイさんの高校時代の映像をみせてもらいました。ダイさんはとても好青年で、英語でスピーチをしている場面やポルトガル語で電話をかけている場面もありました。「高次脳機能障害」という初めて聞いた言葉に戸惑っていた私たちでしたが、その映像が支援に向かう気持ちを立たせてくれたひとつのきっかけになったことも確かです。

私たちの支援センターは、稲城・多摩地域でサービス提供をする事業所です。離れた場所への訪問は今振り返ると特別なケースであったと言えます。

私たちも初めてのことでしたが、当時は高次脳機能障害の方へサービス提供をする事業所はほとんどありませんでした。我々の事業所が、立ち上げ間もない時期であったことから、利用登録者数も少なく、狛江の地まで訪問することが可能であったということも何かのご縁だったのでしょう。

必要な支援が身近で受けられれば、ご本人やご家族の生活の大きな安心や満足に繋がります。そのようなサービスが地域に必要なことを発信し続けたり、支援者の理解を深めて利用に繋げて行くなど、田辺様をはじめサークルエコーの皆様の活動が積み重ねてきたことはとてもエネルギーのいる尊いものであると感じます。

息子が障害を負って20年以上も経ち、我が家にも息子にも相当の環境の変化がありました。その中には、当時は、予想もしていなかった未来への道が準備されていたと驚くこともあります。現在、息子は、「パサージュいなぎ」という知的障害者入所施設で暮らしていますが、村上心悟施設長との出会いもそのひとつです。

平成16年当時、わが一家は狛江市に住んでいましたが、こだわりのため、外出に様々な困難があった息子の支援を他市の施設が運営する事業所に依頼しました。願いがかない、息子と同世代の村上さんたちが交代で我が家に来てくださいました。さらにはサマーキャンプにも誘っていただきました。今回、村上さんの手記を読んではじめて、そのキャンプは、施設の行事ではなく、ほとんどボランティアで行われたこと、村上さんや関係者の心意気であったことを知った次第です。

村上さんたちは、狛江市の我が家でヘルパーをして下さった他、月に1、2度のショートステイを稲城市のパサージュいなぎで体験させてくださいました。そんなつながりがあったことで、夫が病気になり家庭療養を選んだとき、その施設に3ヶ月のミドルステイも引き受けていただきました。そして夫が他界したあと、正式入所となり、現在に至っています。息子が入所して4年後、私自身も近くの団地に引越してきました。

息子が入所した当時、村上さんは、他の事業所の責任者をしておられましたので、同じ法人とはいえ、ほとんど出会うことはありませんでした。そして4年の時が流れ、一昨年秋、同所に施設長として移動してこられた村上さんと再会することになりました。（田辺和子）

・狛江でのサポート

狛江市でのサポートは、私と女性スタッフが週1回、交代でご自宅を訪問し、一緒に同じ空間で過ごすことから始まりました。やがて少しずつご本人の好きなこともわかりお互いの緊張が解けて行きました。中でも相撲中継が大好きで、とても盛り上がって見ておりました。

しかし、一緒に外出することは低いハードルではありませんでした。お母様より「散歩はここ数年決まったコースしか歩いてない」と伺っており、そのコースを案内していただきながら一緒に歩きました。何度か散歩を繰り返すうちに、少しずつダイさんと一緒に「トライ」することが始まります。「スタッフとダイさんだけで散歩にトライ⇒成功」「途中でお店に立ち寄ることにトライ⇒成功」「お決まりの散歩コースを反対周りに回ることにトライ⇒成功」という具合にです。ダイさんなりの固執があり、曲がるべき角で曲がってくれず、通り過ぎてしまうなど失敗も何度もありましたが、うまく行かないこともあって当然と、少しずつ少しずつ色々なことを体験していきました。最終的には市役所に行き喫茶店でお茶をしたり、タクシーやバスを利用したりということもできるようになりました。

ダイさんとの出会いのところで「長い髭を生やしていた」と書きましたが、「髭を剃らせてくれない」ということも当時の支援のしどころの一つでした。電気のシェーバーはスイッチを入れて近づけると拒否。ハサミで切ろうにも拒否があり、危険が伴うので難しいと思われました。入浴は嫌いではないようでしたので、入浴の支援の時に少しずつトライ。T字型の髭剃りを使い、手で払いのけられたりしないように見慣れてもらうところから始めました。そうこうしているうちに髭剃り自体と一緒にダイさんに持ってもらうと拒否が少ないことを発見。次第に拒否なくできるようになっていきました。

未熟な支援者だった私たちの支援と一緒にトライしていただき、それを乗り越えて行ったのはダイさんの持っていた力であると思います。その力やご家族のアドバイスや協同に私たち支援者は育ててもらったと感じております。

・サマーキャンプ

始まって1年余りが経過した支援センターで、夏休み期間のお楽しみ行事としてサマーキャンプを企画しました。学生時代に関わっていたボランティア活動で、障害を持った方達と一緒に楽しめるサマー



キャンプを企画し行ったことがあり、働いてからも絶対に実現させたいと胸に秘めていた行事です。

行先は群馬県の片品村。宿泊先はつながりのあったNPO法人さんのロッジをお借りし、バスはお付き合いのある他施設に借り、運転手やお手伝いはボランティアでパサージュいなぎスタッフにお願いし、多くの方々に助けをもらいながらなんとか開催にこぎつけた、こじんまりと、しかしながら活気あふれるキャンプとなりました。

そのころのダイさんは近所の散歩ならだいぶ範囲も広く行けるようになってはいましたが、まだまだそれ以上ではありませんでした。もちろん旅行なども何年も経験されてなかったことと思います。

キャンプのご案内をするとご家族は喜んで下さり、ダイさんにそのキャンプに参加していただく機会をいただきました。私たちの不安や心配をよそに、楽しげに、慣れた手つきで焼きそばを盛りつけるダイさんの様子を見れば、そのチャレンジがどのような結果であったかは想像に容易でしょう。

・めぐりあい

1 昨年9月から、約9年振りにパサージュいなぎで勤務をすることになりました。地域支援センター時代にダイさんにご家族に出会い、その時からそれだけの時間が流れたこととなります。6年前に、ダイさんはパサージュいなぎに入所されましたが、私は他の支援センターや通所施設に勤務していたので、ダイさんのことは、『サークルエコー』の会報で読ませていただく以外はほとんど接点がありませんでした。

そしてご縁があつての再会。これからまたどのような体験をし、どのような時間を過ごしていくのか。

ダイさんとの出会いをはじめ、これまで私たちを育て、支えてくださった皆様に感謝し、私たちは引き続き「支援の必要な方に、安心して満足して暮らせるための支援を行うこと。地域の新しい福祉文化の担い手となること」という法人理念のもとに歩んで参ります。

サークルエコーの積み重ねてこられた尊い15年の活動に心から敬意を表し、今後のますますのご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

※パサージュいなぎ：社会福祉法人「正夢の会」が運営する事業所。施設入所支援・生活介護・短期入所・稲城市在宅心身障害者(児)緊急一時保護事業を行う。

全国会議/シンポジウムを初傍聴

息子が、平成21年、低血糖から低酸素脳症に陥り、重度の高次脳機能障害者となったことから、昨秋、サークルエコーに入会しました。私がこのたび、全国会議を傍聴したいと思ったのは、日本が高次脳機能障害支援をどのように進めているか是非知りたいからでした。

2月19日、支援コーディネーター会議、2月20日、全国協議会と公開シンポジウムと、2日間にわたり参加して感じたことは、私が思っていた以上に対策が取られている地域があるということです。たとえば地域連携バス、これを使えば、今まで、何か所にも同じ説明を繰り返しても、言葉足らずのことがしばしばありますが、連携バスを使えばある程度解消されます。医療の支援とリハビリの支援が別々ではなく、有機的に行われるようになれば、道は開かれると強く感じました。これらは、今まで、高次脳機能障害者支援に携わってきた方々の尋常ではない努力のたまものであると受け取りました。

同時に重度の高次脳機能障害の支援については、これからさらに色々な方面に働きかけをしなければならぬとも思いました。なぜなら就労支援に繋がる事に今は重点を置いている発表が多いと感じたからです。

医療とリハビリを効果に組み合わせたプログラムが将来、出来ることを期待しながら、我々家族の方も、やるべきことを自覚し、推し進めるべきと考えました。具体的には、家族同士で勉強会が出来る環境、たとえば、これまで、私も今回のように遠くまで（盛岡⇒東京）講演を聞きに行くようなことは、息子の介護に追われて出来なかったが、そういう家族は他にもとても多いのではないかと、そうであればネット配信をして自宅で自由な時間に視聴できるように出来ないか。等々

さらには、相談できる医師の情報を配信したり、近くの医師を紹介してもらうとか、色々考えられる。そうして我々が、高次脳機能障害の程度により対処の方法を探していければより道が開けるのではないかと。こうして最終的には就労支援が出来る状態にもっていくことができれば何よりと思います。

（岩手県盛岡市 虫壁）

心のファイルから

辛いことばかりじゃない

茨城県 根本真理子

仕事と生涯学習に励んでいた父が

今から15年前の1999年12月20日、午後10時過ぎに父が倒れました。私は高校2年の時で、父はちょうど52歳でした。父は、その頃、帰りが毎晩、終電で、なおかつ放送大学の生涯学習で心理学の勉強もしていました。過労が重なったのでしょうか、心室細動を起こし、心臓が止まりました。脳に酸素が通っていなかった状態が12～13分あったため、低酸素脳症となり、記憶障害が残りました。脳の海馬と呼ばれる場所が壊れ、記憶が出来ない「高次脳機能障害」になったのです。一生懸命に蘇生させてくださった方々や、救急隊の方にもお世話になりました。

倒れた時、病院より連絡を頂き病院へ向かう際、祖母はずっと祈り続け、病院に駆けつけました。家族の姿を見るなり、父の目には涙が見えたそうです。

心臓に除細動器埋め込みの手術をし、退院しましたが、私たち家族は退院したら治るのだと思っていたところ、脳に対する記憶障害は治らないことが判明し、落胆しました。一緒にどこかへ行っても帰ってくる頃には忘れてしまいます。楽しい思い出、悲しい事、悔しいこと、一見、忘れられていいな！という時もありますが、父にとっては辛いことなのだと思います。父自身も、リハビリや職業訓練にも励みましたが、定年よりもはるかに早い退職となり、家族も大きな代償を払いました。

地域の友人やエコーの仲間



会報発送作業も慣れたものです。

父が退院して間もない時は、このような状況に陥るとは思ってもいませんでした。事実、当時の私は父のことも、現実も受け止める事が出来ず、自分の殻に閉じこもった状態で、自分の居場所を完全に見失ってしまい、真剣に物事を考えられない状況にいました。ですが、ここ数年で私自身が変わることが出来、前を向いて進まなければいけないと感じるようになりました。

私たちが落胆している時に、この障害を持ったお子さんのご両親がたまたま新聞に出ているのを見て、すぐに連絡を取り、そこからサークルエコーへと導かれました。毎月の集まりはもちろん、レクリエーションや合宿、また、最近では、親が当事者で息子・娘の立場の子の存在も増えてきました。

同じ障害を持ってどん底にいる時も、気持ちを分かってくれ、どれだけ支えられ、励まされてきたことか、今はとても感謝しています。そのおかげで、辛いことがあっても笑いに変えられるようになったのです。

ここで、少し、今だから笑える話をしたいと思います。父は、一つの事に執着するという特徴があります。父は、裏が白い紙をメモ用紙にする為、色々な所から紙をもらって集めてくる。「年齢はいくつ？」と聞くと、現在は67歳ですが、「52か3だな。ちょうど油ののった時だから」。それに対し、「そんなに若くないでしょう～」とツッコミを入れると、「じゃあ、60くらい」と、そこからは段々、予想をして言います。また、父は、夜7時は、必ずNHKのニュースセブンを見ないと機嫌が悪くなります。7時30分までのニュースを見終わると、母と私、女の陣が民放へチャンネルを回します。そうすると、

つまんなそうな顔をしてみたり、時には興味があったり、笑ったり、旅番組で料理が出てくると、「うまそうだなあ〜」と試してみたり。

自発的に行動することが出来なくなるのがこの障害の特徴ですが、父が進んでしてくれることは、やってもらうようにしています。例えば、朝晩の雨戸閉め、風呂掃除、ゴミ出し。特に、夕方の雨戸閉めは、私たちが「まだいいよ！」と言わない限り、4時頃にはすべて閉めて真っ暗にしています。夏は暑いし、明るいので7時まで開けておきたいと私たちは思うのですが、父の時間は違うようで、閉めたりします。

唯一、こちらが気をつけてあげていることは、体調の変化です。自分自身で症状が言えないので、今までで3回ほど救急車のお世話になっています。一度目は上記の疾患の為ですが、2度目は冬の長風呂です。湯船に首までつかり、顔だけ出して蓋を閉めて15分位でのぼせて救急車へ。3度目は大好きなテニスの運動後、水分を取らずにビールで乾杯し、失神です。

何かとお騒がせな父ですが、家族も障害を理解し、これも新しい個性として支えています。学生時代から続けているテニスを、受傷前より、団地内にありますテニス愛好会の仲間にも支えられながら今も続け、運動後は、父だけノンアルコールビールですが、仲間といっぱいやることを楽しみに生活しています。

ある年のエコー合宿の時のこと。これまで、全くカラオケなどしない真面目な父だと思っていましたが、会食時にカラオケ大会があり、父が一番にマイクを取り、上機嫌でカラオケを歌った時には、母も私もびっくり仰天で、開いた口がふさがらない位でした。その夜、私と母は「お父さん、カラオケなんて歌うのね」と興奮気味でした。良い所を引き出してくださる仲間がいるので、本当に助かっています。



気持ちよさそうに熱唱

娘の結婚に父は

2014年11月24日、私が結婚しました。結婚の申し込みに来た彼に対し、「一週間くらい待ってくれ」と言ったり、婚約が決まったら両家揃っての食事会の席で、「健康の為に酒は飲みません」と試してみたり、相手のご両親に感心されたり、よほど普段の生活で母が面倒をよく見ているのねと言われたりしています。



結婚式では、娘を持った父親の特権、「腕を組んで娘とバーจินロードを歩く」という大役も頑張りました。ドレスをふまないように、早足にならないように気をつけました。実際は、本当に大変で、「左足からだよ」と私が父に囁き、少しよろけながらの歩き方になってしまいました。

私が居なくなっても淋しくないという両親ですが、両親は、静かになって良かったと言っています。本当に騒がしい娘のことがひとつ片付き、静かになって、せいせいしたとのこと。娘にとっては、もっと淋しいとか言って欲しいのですが、実家から離れてからの私の心配は、父が健康でいるか、母は手抜き料理になっていないか等です。

2015年、初めてのお正月、田川家は娘が居なくてもいつもと同じお正月を迎えたそうです。私は初めてのまったりとしたお正月を迎えました。結婚式直後、実家では、写真を大きくして、父が忘れないように飾っていましたが、写真をしまっていると記憶には残らないようで私が帰省をすると父は「おい、早く結婚しなさい」と言うのです。

「啓発用冊子」が完成

「東京都共同募金会」からの助成を受けて、15周年記念シンポジウムを基にした啓発用冊子が完成しました。3月14日、会員、サポーターを始め、都内医療機関・相談窓口・就労支援機関・入所施設、全国の支援拠点、JT BIA・NPO 法人東京高次脳機能障害協議会（TKK）それぞれの加盟団体等に発送しました。

*冊子についてのお問い合わせはサークルエコーのHPなどをお使いください。



「中鎖脂肪酸」とは

12月4日、会報58号の発送作業の日「日清オリオグループ(株)の脳機能改善の研究チーム」の担当の方（渡辺氏、中島氏）が見え「脳の栄養不足を助ける中鎖脂肪酸=MCT」のお話を聞きました。MCTは体に入ると「ケトン体」になり、脳は「ブドウ糖」が不足すると「ケトン体」を利用する、アルツハイマー病になると脳は「ブドウ糖」を上手く利用できなくなる、ことが分かってきた。しかし、ケトン体を利用する能力は残っており、「ケトン体」により再び機能する可能性がある、と言うお話でした。（高橋）



「バリアありー」の「夢のみずうみ村」

12月13日、世田谷区八幡山にある介護通所施設「夢のみずうみ村 新樹苑」（管理人：半田理恵子氏）を見学しました。お昼に到着し、ハヤシライスとサラダ（500円、安い！）のランチをいただきました。食事はバイキング形式、食事のあと、コップ、お箸、おさらなど使った食器はそれぞれ決まった所におくように工夫されています。利用者は、約70名。藤原茂代表と長谷川幹先生の対談は、「これからの在宅支援を考える」。藤原代表が、ここはバリアフリーでなく「バリアありー」の施設であるということ。たしかに、階段をのぼったり、名前を書いてある自分の引出しに物をしまったり、すべての行動が、リハビリにつながるように工夫してあります。マッサージ器が5台、ビリヤードやマーじゃん台もあり、娯楽設備も充実していて、もちろん、そのすべてリハビリにつながっているのです。ここには、通いたくなるな～と思いました。対談のあと、2階の広間で開かれた「ふれあい音楽」に参加しました。バンド演奏は、世田谷区医師会の先生方。名司会者も内科医師でした。

※夢のみずうみ村：藤原茂氏が、山口県につくったものが第一号。現在、世田谷区、浦安市、そして岩手県大槌市には子どものためのものが開設。（西田）

いつまでも YOUNG MAN、ヒデキ流リハビリ

3月7日 八王子のオリンパスホールで開催された市民公開講座に（主催は脳卒中地域医療連携パス協会）エコーからは田辺さん、高橋夫妻と西田が参加しました。定員 2000 名の会場は、いっぱいの聴講者でした。

第1部は、エコーのシンポジウムで、お世話になった渡邊修先生の講演「知って納得！脳梗塞という病気のお話」。会場は、脳卒中の当事者と家族の方々が多かったように思えますが、渡邊先生の高次脳機能障害についての解説ではじめて高次脳機能障害に気がついた方やご家族があったかもしれません。先生の講演は、ユーモアを交えてのわかりやすい講演でした。

第2部は、歌手の西城秀樹さんの「脳梗塞からの復帰とリハビリ いつまでも YOUNG MAN」。2度目の脳梗塞で後遺症が残ってしまったとのこと。当日は天候が悪いこともあり、ちょっと身体的に辛そうでした。天候には左右されるとのことです。

登場するときに〔ヤングマン〕の音楽が流れたので、もしかしたら歌を聞けるのかもと期待をしてしまいました。この4月に60歳になられる西城さんは、ずっと椅子に座っていて、インタビュー形式で体験談をお話しされました。今は奥様やお子さんに感謝し、リハビリに励んでいますとのこと。これからの目標は、野球の長嶋さんのように、杖を持たないで歩けるようになることと話されました。〔自分の出来る配分で余裕を持って〕〔ありのままを受け入れる〕〔人に優しく、自分に優しく〕など、西城秀樹さんの言葉に、焦らないで、ゆっくりと人生を楽しもう～と言う気持ちが伝わりました。（西田）



「ふらっと」で日英セミナー

2月28日、「世田谷ふらっと」で「日英セミナー：脳損傷者の生活の質向上とアート活動」（企画：工科大学 小川喜道教授）が行われました。英国の「Head Way」は、1979年に設立された脳損傷支援団体です。13年前のエコー会報 vol.10（2002.7）に、神山 ST のレポートを掲載しています。今回は、最高経営責任者のミリアム・ランツベリーさん、事業開発部長のベン・グラハムさんが事業の概要やアート支援について語られました。仙台、浜松、豊橋などでもセミナーが開催されます。私は久しぶりに訪ねたセミナー会場の「ふらっと」の利用者さんたちの活躍にも目を見張りました。利用者さんたちが能力を発揮できる場面を様々に用意しながら、裏方に徹しておられたスタッフさんたちの働きは、今回もとても印象に残りました。（田辺）



私の視点、我が家のケア 川崎市の相談支援従事者研修会

3月13日、川崎市の高齢社会福祉総合センターで「相談支援従事者実務研修3」が行われました。研修参加者は、行政機関や事業所で、障がい児・者の相談業務に5年以上の経験のある方たち、これまでのシリーズを受講した方々ということで、「ソーシャルアクションの視点」というテーマで3時間の研修会の講師を依頼されましたので、会員の高橋さん、近藤さんにも助っ人をお願いし、体験談を語っていただきました。

私は、テーマを意識し、私の視点ということから話をはじめることにし、自己紹介のとき、「熊本生まれ」であること、小学校のとき、水俣で、魚を食べたネコが狂う話を聞いたのが、後に水俣病と名がつくものとなっていきはじまりだったこと、20代のとき、三池の炭じん爆発があり450余名の死者、850余名のCO中毒者がでたこと。水俣病も三池のCO中毒者も、高次脳機能障害とつながること。高校への通学バスの窓越しに、熊本家庭裁判所の前で、その人たちがのぼりをたてて集まっている姿などを見ていたことなどを少し話しました。本題としては、高次脳機能障害が行政課題となっていた過程、現在の状況、支援者にのぞむことなどのあと、2月の全国協議会後の公開シンポジウム同様、息子が受傷した後、多くの方々の支えがあったことなどを話しました。

高橋さんは、妻のツネヨさんが利用している武蔵野市の事業所のこと、65才になって介護保険対応のところに移ったこと、家庭での様々な介護の工夫のほか、自身が介護のため、会社を辞し、通信教育で料理をならったこと、植木職人になったいきさつなども話されました。

近藤さんは、ご長男が突然、受傷されたときの驚きや悲しみ、対応への怒りなどを涙を浮かべながら話され、現在は、アシスト歩行器や「書字」（研究者が腕を支えて助ける）を試みていることを話されました。会のあと、その書字というものを見せていただき、はっきりとした筆跡にびっくりしました。受講生も興味深そうに、近寄って見ていました。

(田辺)

学習会「よりよい家族関係を学ぶ」

3月7日、サークルフレンズ（愛知県瀬戸市）の学習会に参加しました感想をご報告します。テーマは、「よりよい家族関係を学ぶ」でした。障害者を持つ家族の方に向けた、全般的な話でとても勉強になりました。それぞれの性格の違いを理解すれば、接し方も変わって来るとか、人のお話を聞く傾聴トレーニングなど体験しました。お話の中で「冰山モデル」と言われ、問題行動を氷山に例えるそうです。表に出ているのが、問題行動、水面下に隠れているのが原因。この水面下の部分を無くして行かなければ、表の問題行動は解決しない、と言うお話でした。このお話が、私の心に残りました。主人もその通りの行動だと思います。そして、帰りには講師の方にもお話を聞いて頂けたのが嬉しかったです。フレンズ代表の豊田さんはとても優しく素敵でチャームアップでした。私の主人と良く似たご主人をみていらっしゃる方を紹介して頂き、話を聞いて、と席を一緒にしてくださり、時間も作っていただきました。最後には、連絡さきも交換するようにと手配をしてくださいました。その方とお話が出来た事もとても良かったです。三重県度会郡の我が家まで電車を乗継ぎ2時間(?)の道のりですが、帰り道は、とても明るい気持ちで、また、ぜひ遊びに行きたい、皆様にお会いしたい、と思いながら帰りました。

(三重県度会郡 里中直美)

サークルエコー行事&会合

- 12/4 えこーたいむ（日清オイリオ説明会、58号印刷・発送作業）・・・武蔵野市：武蔵野プレイス（田辺2、西田2、高橋2、田川2、村田、吉田、山崎、高橋（ま）、仲栄真さん、日清オイリオ（渡辺氏、中島氏）
- 12/05 内閣府セミナー「若年脳損傷ネットワーク」他・・・有楽町：朝日ホール：（田辺、中村3）
- 12/06 南多摩高次脳ゼミ[高次脳機能障害者の改善のカギは地域]長谷川幹講師・・・八王子市：京王プラザホテル八王子（田辺、西田2）
- 12/07 TKK 第2回 高次脳機能障害実践的アプローチ講習会・・・港区：慈恵医科大学 西新橋校：（田辺、高橋2、山崎（聴講））
- 12/13 夢のみずうみ村「新樹苑」講演会/見学会（講師：藤原茂氏/長谷川幹氏）・・・世田谷区：八幡山（田辺、西田2）
- 12/17 高次脳機能障害者と家族のつどい・・・稲城市：福祉センター（田辺）
- 12/26 尾崎氏と会報打合せ・・・川崎市：宿河原（田辺、西田2）
- 12/28 59号編集会議・・・稲城市：田辺宅（田辺2、西田2、高橋2）
- 01/16 デンマークの福祉勉強会（講師：澤田真智子氏）・・・稲城市：田辺宅（田辺、中村2）
- 01/17 新年会・・・東京：品川（田辺、西田2、田川2、村田、今仲2、愛、廖、高橋マ）
- 01/18 TKK ピアサポート研修会・・・狛江市：慈恵第三（高橋2）
- 01/18 コア会議（啓発冊子打合せ）・・・調布市：アクロス（西田2、高橋2、山崎）
- 01/25 TKK 理事会・・・新宿：TKP カンファレンスセンター（高橋2）
- 01/25 「高次脳機能障害ってなあに」（講師：江村俊平）・・・稲城市：地域振興プラザ・・・（田辺）
- 01/28 コア会議（啓発冊子打合せ）・・・武蔵野市：高橋宅（西田2、高橋2、山崎）
- 02/15 コア会議（啓発冊子打合せ）・・・武蔵野市：高橋宅（田辺、西田2、高橋2、山崎）
- 01/31 「障害者への合理的配慮について」（講師：山本あおひ）・・・稲城市：^{あい}iプラザ（田辺）
- 02/14 高次脳機能障害者と家族のつどい・・・稲城市：福祉センター（田辺）
- 02/19 第2回支援コーディネーター全国会議・・・神谷町：スタンダード会議室（田辺、虫壁）
- 02/20 第2回全国連絡協議会&公開シンポジウム・・・神谷町：スタンダード会議室（田辺・発表、高橋、虫壁）
- 03/01 川崎市相談支援従事者実務研修打合せ・・・稲城市：田辺宅（田辺、西田2、高橋2、廖）
- 03/07 サークルフレンズ学習会「よりよい家族関係を学ぶ」・・・瀬戸市：やすらぎ会館（豊田、丹羽、里中）
- 03/07 市民公開講座「脳梗塞からのリハビリ」・・・八王子：リハビリ（田辺、西田2、高橋2）
- 03/13 川崎市相談支援従事者研修・・・川崎市：高齢社会福祉総合センター（田辺、近藤、高橋2）
- 03/13 会報59号編集打ち合わせ・・・川崎市：多摩区（田辺、西田2、高橋2）
- 03/14 啓発冊子発送作業・・・武蔵野市：高橋宅（西田2、高橋2、田川、井上2、山崎）
- 03/18 高次脳機能障害者と家族のつどい・・・稲城市：福祉センター（田辺）

TKK 高次脳機能障害相談・支援室	狛江市：慈恵第三	12/2、1/6、1/13、2/3、2/10 田辺 12/9、1/27、2/27、3/24 高橋
マリン横須賀	久里浜：ゆんるり	1/18、2/15、3/15 田川、愛

NPO 法人 東京高次脳機能障害協議会（TKK）からのお知らせ

●2015年度 高次脳機能障害実践的アプローチ講習会（全3回シリーズ）の開催

- ・会場：東京慈恵会医科大学西新橋校大学1号館・受講料：1回5,000円（資料代込）
- ・申込方法、受講料の振込先など詳細は <http://www.brain-tkk.com>

第1回 2015年5月10日（日） 講師とテーマ

- ① 舘野 歩氏 東京慈恵会医科大学附属第三病院神経科/医師
「不安・易怒性に対する精神科の対応および森田療法のご紹介」
- ② 山口加代子氏 横浜市総合リハビリテーションセンター/臨床心理士
「高次脳機能障害者と家族への心理的サポート～事例を通して」
- ③ 石川 篤氏 東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリ科/作業療法士
「高次脳機能障害者のリハビリテーション」
- ④ 森戸崇行氏 千葉リハビリテーションセンター地域連携相談室/ソーシャルワーカー
「高次脳機能障害者を支える社会制度の実際の利用方法」

第2回 8月23日（日）講師：片桐伯真氏、大塚恵美子氏、大貫正男氏、加藤俊宏氏

第3回 12月6日（日）講師：渡邊 修氏、野々垣睦美氏、柳沢朋秀氏、半田理恵子氏



ご支援ありがとうございました。



2014年12月～2015年3月までにご寄付、賛助会員費をお寄せくださった方々です。（順不同、敬称略）

岡崎 由紀子 佐藤 孝子 岡田 純子 中島 香 馬場 真弓 新川 より子
粉川 靖子 沢田 真智子 山田 純子 矢田 正幸 柴田 玲子 吉田 筈子
古閑 八枝子 柳谷 幾代 綿森 淑子

◎ 入会のご案内

「正会員」

入会金 1,000円

年会費 3,000円

◎ 今年度も賛助会費のご協力よろしくお願いいたします。

年会費（4月～3月）1口 2,000円

郵便振替 口座記号番号 00180-0-546112 サークルエコー

2015年4月～6月 活動予定

えこーたいむ・・・4/25、5/23、6/23（他の日にイベントなどがある場合は変更します）

多摩エコー・・・・・・・・・・・・・・ 随時

地域で共に生きるナノ《三郷市》・・・・・・ 随時

サークルフレンズ《瀬戸市》・・・・・・ 毎週、月曜、水曜、金曜、土曜

編集人 東京都稲城市若葉台 三ー一ー Cー四〇五
脳損傷・高次脳機能障害 サークルエコー
発行人 東京都世田谷区砧 六ー二六ー二ー「定価は会費に含まれる」
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価 百円

編集後記

●年明けにガラケーからスマホに替えました。簡単表示の高齢者仕様の設定を「いろいろな機能を便利につかいたいので」と断ったのに、メールさえ出来ず1週間後にはショップで簡単仕様に変えてもらいました。それでもまだ。つくづく感じる、デジタルデバインド。 (Tanabe)

●暮れに「中鎖脂肪酸=MCT」のお話を聞いたことがキッカケで、食用油についての本を書店で見つけ読んでみました。油＝サラダ油も「脳」や「認知症」に深く関係していることを知りました。「知る」といろいろ「考える」ことも多くなり、「考える」こともまた「脳」に良いことではないかと思っています。 (Takahashi)